

スウェーデンマルメ大学研修より、帰国して一週間が経ちました。ようやく、落ち着いたので、感想文を寄稿させていただきます。

マルメについてすぐの懇親会で、熊谷先生よりメッセージを参加者にいただきました。①日々の診療に埋没することなく、日本を飛び出し、時に世界標準の医療を見ること。②そして哲学を学ぶこと。

このふたつが私の心にとっても響きました。

日本を飛び出し、世界から眺めた時、自分たちが日々行っている診療が、果たして正しいと思えるものなのか？日本のガラケーみたいに、ガラパゴス化し、世界から見ると取り残されているのではないか？もしそうなら、自分たちを信じてこられている来院者、そして日々精進を重ねる医院のスタッフにとって、自分が向かっている方向性が間違っているとしたら、とても申し訳ないことだと、改めて気づく機会になりました。

日常の臨床の中の疑問を、スウェーデンに行ったらこれを聞きたい、これを見たいとおもっていたので、マルメに行くことと決めた1年近く前から、英会話スクールを十年ぶりに始め、ダン教授や多くの先生方歯科衛生士さんに直接質問できたのはいい思い出ですが、自分の英語力のなさに愕然とした次第でもあります。それでも、通訳の西先生のサポートもあり、わかりやすく教えていただき、いろんな情報を得ることが出来、ありがたかったです。

特に、私は歯科衛生士学校の講師をしているので、歯科衛生士の教育システムに非常に興味がありました。スウェーデンの歯科衛生士はレントゲンも撮影出来て、診断も麻酔もできます。デンタルナース（歯科助手）も歯科医師のもと、レントゲン撮影、印象、充填が行えます。う蝕予防と歯周病治療が歯科衛生士の仕事、治療のアシスタントは歯科助手とキチンと分けられています。そして、歯科衛生士は学生教育一年目から歯科医師とチームを組み、担当患者さんの治療にあたり、卒業してすぐに自分の担当の患者を持ち治療できるほど、考えられた教育プログラムがあります。日本では歯科助手は特に教育プログラムもなく、専門的な仕事をすることはできません。国がデンタルナース（歯科助手）に教育プログラムと明確な仕事の範囲を明示し、歯科助手がアシスタント、歯科衛生士は歯周病とう蝕予防と明確な役割を与えることが、国民の口腔からの健康を世界レベルに変えていく礎になるのではないのでしょうか？

そんなことを考えさせられたスウェーデンマルメ大学研修でしたが、私にと

って得難い経験になりました。ありがとうございました。